

混合交通を観察する
DOCUMENT
series—194
Eye

平成17年中の交通事故発生件数93万3828件のうち、出会い頭事故は24万6945件(26.4%)だった。これを地域別にみると、市街地が全体の75.7%を占めている。さらに、この約半数(52.5%)は信号機のない交差点で起きている。信号機のない交差点は、車両

一時停止標識のある信号機のない交差点で車両は一時停止しているか?

● WHY



● 観察場所 / 群馬県高崎市南町4-3付近
● 観察日 / 3月18日(土曜日)
● 天候 / 曇
● 観察時間 / 17:05~18:05(1時間)
● 観察者 / 3名

停止線を越えて、その先の見通しの良い場所で停止するクルマ。自転車のほとんどは一時停止を行っていなかった

だけでなく、歩行者、自転車も交差するため、ドライバーやライダーは十分に注意しなければならぬ場所である。今回はドライバーやライダーの視認性が悪くなる日没前後の時間帯に、群馬県高崎市内の信号機のない交差点で車両の一時停止状況について観察してみた。

● 日没前後に地方都市の信号機のない交差点で車両の一時停止状況を観察する
信号機のない交差点で、一時停止した車両141台中23台(16.3%)

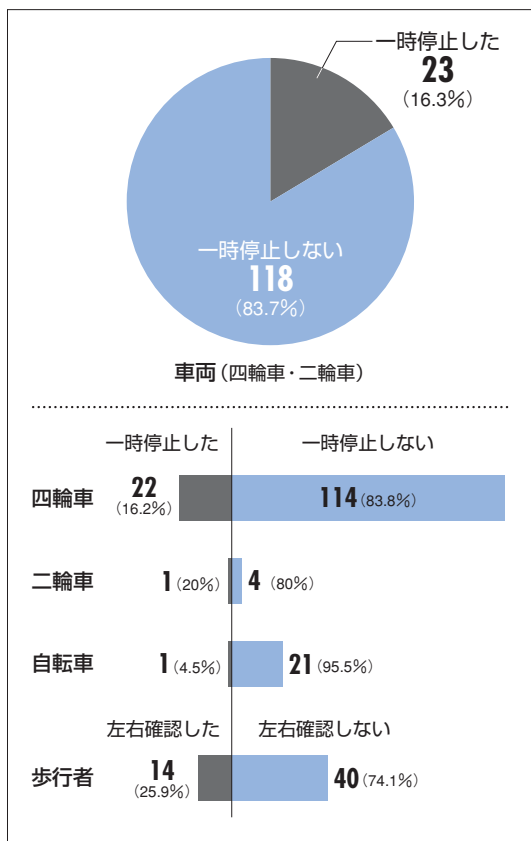
● WATCHING

停止線では止まらず、交差する道路を見通せる場所で停止する車両

観察場所は「R高崎駅」に近い信号機のない交差点。表通りと並行して伸びる道路が交差する地点で、4方向ともに一時停止標識(止まれ)が設置されている。周辺は事業所や飲食店、一般住宅が立ち並んでいる。この日の日没時刻は17時53分。観察時間帯はドライバーとライダーにとって歩行者や自転車が見えにくい状況だった。この交差点では店舗や住宅の塀のため、停止線の直前で一時停止を行った後、再度その先で左右の安全を確認する必要がある。

1時間に、この交差点を通過した車両は141台(四輪車136台・二輪車5台)、自転車は22台、横断した歩行者は54人だった。観察の結果、一時停止を行った(停止線の直前で停止した)車両は23台。一時停止を行わなかった車両は118台だった。一時停止を行わなかった車両118

● 一時停止標識のある信号機のない交差点での車両の一時停止状況と歩行者の左右確認状況(総台数:141台)



クルマ同士が同時に交差点内に入ろうとしたケースも観察された

台車77台は、停止線を越え、その先の交差する道路を見通せる位置で一時停止を行っていた。このような車両のドライバーの中には携帯電話を使用しながら、また地図を見ながら運転しているケースがあった。自転車は22台中21台が停止線の直前、その先でも一時停止を行っていなかった。停止した1台はクルマに前方を遮られてしまい、仕方なく停止した状況だった。また、周囲が薄暗いにもかかわらず、ライトを点灯しているクルマ、自転車は少なかった。歩行者は54人中40人が交差点の手前で左右確認をせずに横断していた。左右

確認を行った例では、先を歩く子どもに交差点の手前で止まるように注意を促す母親が観察された。

● PROPOSE

一時停止標識のある場所では停止線の直前で止まる

住宅街などを通る生活道路には信号機のない交差点が多い。生活道路周辺では子どもや高齢者が歩行者として、また自転車利用者として道路を利用している。歩行者や自転車はクルマの接近に気づいていない場合があり、まわりをあまり見ずに、車道に飛び出してくることもある。こうしたことに対応するためにも、ドライバー、ライダー



写真上/停止線の直前で一時停止を行うクルマ
写真下/交差点を横断する前に、左右の安全確認を行う歩行者も少なかった

【お知らせ】

4月1日付、本田技研工業株式会社安全運転普及本部長に吉見幹雄が就任。

前任者同様、より豊かなモビリティ社会の実現に向け、なお一層邁進いたします。今後とも、よろしくお願い申し上げます。